

分野名	統合と実践	科目名	看護管理	
単位数	1	授業時間数	15	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	兼任講師			
担当教員名				
目的	変化する医療現場の中で看護職に求められる役割を理解し、多職種と連携・協働したチーム医療を推進し、質の高い看護を提供するために必要なマネジメントの基礎的知識を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 組織や看護のマネジメントについて述べる。 2. 看護ケアマネジメントとチーム医療の中の看護職の機能・役割について述べる。 3. 看護専門職として成長するためのキャリア形成について述べる。 4. 看護サービスマネジメントの対象とそのしくみについて述べる。 5. 組織における構造や原則を整理し、マネジメントとの関連について述べる。 6. 看護制度と政策、経済が看護に及ぼすしくみについて述べる。 			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 客観試験(60%) 課題レポート(30%) 出席率・演習やグループワークへの姿勢(10%) 課題レポートの評価は100点満点として以下の基準で採点する。 論点が課題に対応している(20点) 思考力(20点) 文章が論理的に構成されている・日本語の表現が適切であるなどの論述能力(60点)			
使用テキスト・教材	系統看護学講座 看護の統合と実践 1 看護管理 医学書院 最新版			
履修にあたっての留意点	授業に関するテーマについての課題が複数回あり、事前課題・事後課題は決められた期日までに提出すること(事前課題は授業開始日に提出する。事後課題はその回の翌週の授業開始時に提出する。提出レポートはA4とし、引用があれば明記すること。表紙は不要とする。第1回目の授業の事前課題:テキスト第1章を読み「看護管理の定義について、および看護におけるマネジメントの考え方の変遷」を1200字以内にまとめて提出する。第2回目の授業の事後課題:病院で働く専門職種の一つを取り上げ、教育方法・免許・試験・業務内容について1200字以内で記入。職種の一覧はテキスト217ページからを参考にしてください。ただし看護師は除きます。授業に関する質問などは講義日の12時15分から12時40分までに講師控室にて対応。			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	学習ガイダンス 看護とマネジメント マネジメントのプロセス	講義	兼任講師	
2.	看護ケアのマネジメント 患者の権利の尊重 チーム医療とは	講義 演習	兼任講師	
3.	日常業務のマネジメント 看護職のキャリアマネジメント	講義	兼任講師	
4.	看護サービスのマネジメント 看護提供方式 人材のマネジメント マネジメントに必要な技術 事後課題あり テーマは授業終了時に発表	講義 演習	兼任講師	
5.	看護職の働き方のマネジメント 交代制勤務と労働衛生 ワークライフバランスの促進	講義	兼任講師	
6.	グループ別課題研究準備	グループワーク	兼任講師	
7.	課題研究発表会 看護を取り巻く諸制度 医療法 診療報酬	全体討議 講義	兼任講師	
8.	単位修得試験			
9.				
10.				
11.				
12.				
13.				
14.				
15.				
16.				

分野名	統合と実践	科目名	医療安全	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	専任講師、兼任講師			
担当教員名				
目的	感染管理を含め、安全な看護活動を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護現場で発生しやすい看護事故と防止策について述べる。 2. 組織的な安全管理体制と国の医療安全対策について述べる。 3. 組織的な感染管理における看護師の役割と協働の重要性について述べる。 4. 対象及び看護師の安全を守る感染予防のための看護技術を実施する。 5. 感染症発生時の医療現場の現状、及び、多職種との協働について述べる。 6. 看護師として必要な態度を表現する。 			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験：100%			
使用テキスト・教材	教科書 ナーシンググラフィカ 看護の統合と実践②「医療安全」メディカ出版 参考資料「医療安全ワークブック第4版」医学書院			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・予習復習を確実に行う。 ・課題については積極的に取り組む。 ・演習時は身だしなみを整え、私語は慎み、技術向上にむけて真剣に取り組む。 ・グループワークは、メンバーの一員であることを自覚し、主体的に参加する。 ・提出物については、内容をよく確認し、提出期限内に提出する。 			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	医療安全を学ぶ意義・事故防止の考え方	講義	専任講師	
2.	組織的な安全管理体制への取り組みと国の医療安全対策、医療機関の医療安全対策	講義	専任講師	
3.	療養上の世話における事故と安全対策	講義・DVD	専任講師	
4.	療養上の世話における事故と安全対策	講義・DVD	専任講師	
5.	療養上の世話における事故と安全対策	講義	専任講師	
6.	組織的感染管理	講義	兼任講師	
7.	組織的感染管理	講義	兼任講師	
8.	組織的感染管理(演習)	演習	兼任講師	
9.	感染症発生時の医療現場の現状、及び、多職種との協働	講義	専任講師	
10.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師	
11.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師	
12.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師	
13.	診療の補助業務に伴う事故と安全対策	講義	専任講師	
14.	医療安全とコミュニケーション	講義	専任講師	
15.	単位修得試験			
16.				

分野名	統合と実践	科目名	災害看護	
単位数	1	授業時間数	30	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	兼任講師			
担当教員名				
目的	諸外国を含め、災害発生直後から支援できる看護活動を実施するために必要な基礎的知識・技術・態度を身につける。			
目標	1. 災害看護の歴史や関連する知識を述べる。 2. 被災者や他職種と協働し、災害発生直後から継続的に介入が必要な看護について述べる。 3. 被災者や他職種と協働し、災害発生直後を想定した看護活動が実施できる。 4. 海外で発生した災害に関連した国際協力について述べる。 5. 看護師として必要な態度を表現する。			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合(%)を示す 単位修得試験90%・レポート10%			
使用テキスト・教材	・系統看護学講座 統合 災害看護学・国際看護学 医学書院 ・小井土雄一他：多職種連携で支える災害医療 医学書院 ・國井修：災害時の公衆衛生・私たちにできること 南山堂 ・厚生労働省：日本DMAT活動要領,2010.03.31改正 他			
履修にあたっての留意点	臨地実習に直接必要な知識ではないが、看護師として患者の安全を守る立場になる上で必須の知識及び技術であるため、特にシミュレーションや訓練は真剣に取り組んでください。 過去の被災体験などを想起するといった状況がある場合は、必ず講師に報告してください。			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	災害とは、災害の歩み、基礎知識、特徴	講義	兼任講師	
2.	マスギャザリング、災害と情報、職種間連携	講義	兼任講師	
3.	災害看護と法律、課題と対策、災害看護の定義と役割	講義	兼任講師	
4.	対象、特徴と活動、看護に必要な情報、アセスメント、ジレンマ	講義	兼任講師	
5.	急性期・亜急性期	講義	兼任講師	
6.	慢性期、復興期、静穏期	講義	兼任講師	
7.	子供、妊婦、高齢者、障害者、精神疾患、慢性疾患	講義	兼任講師	
8.	原子力、外人、心のケア、救済者の心のケア	講義	兼任講師	
9.	展開 実際の経過を継時適に講義 災害直後～急性期、亜急性期、慢性期の実際	講義	兼任講師	
10.	展開 実際の経過を継時適に講義 災害直後～急性期、亜急性期、慢性期の実際	講義	兼任講師	
11.	国際看護学	講義	兼任講師	
12.	包帯法など、固定	演習	兼任講師	
13.	体育館使用の演習	演習	兼任講師	
14.	体育館使用の演習	演習	兼任講師	
15.	単位修得試験			
16.				

分野名	統合と実践	科目名	看護研究の基礎 I	
単位数	1	授業時間数	15	
開講年次	2	開講期間	通年	
担当教員	専任講師			
担当教員名				
目的	看護の質向上に必要な研究の基礎知識を身につける。			
目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護職者として看護研究に取り組み意味や方法を述べる。 2. 看護研究の過程に必要な知識を述べる。 3. 事例研究（ケーススタディ）の方法について述べる。 4. 研究に取り組む際の倫理的配慮について述べる。 5. 看護実践の中から関心ある事象を抽出し、記述できる。 6. 看護研究のテーマの選定に向けて、必要な文献を検索し、自己の力で読んで要約する。 7. 看護研究の発表方法を述べる。 			
成績評価の方法と基準	※成績評価については、各方法が評価全体に占める割合（％）を示す ①研究発表の要点まとめ作成 5% ②看護学会の口演を視聴し、発表内容を理解し、質問文作成 5% ③事例研究報告書のクリティーク用紙作成（ケーススタディのチェックリスト） 5% ④看護研究テーマ（課題）決定シート 15% ⑤文献カード 10% ⑥客観試験 60%			
使用テキスト・教材	【教科書】松本亨、森田夏実編：わかりやすいケーススタディの進め方、照林社、2023。 【参考図書】南裕子：看護における研究、日本看護協会出版会、2008。 古橋洋子：看護研究ビギナーズNOTE、Gakken、2011。 小笠原知枝・松木光子編：これからの看護研究—基礎と応用、ヌーヴェルヒロカワ、2012。 ほか			
履修にあたっての留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・当科目では、ケーススタディへの取り組みを通じて、学生個々が臨地実習で経験した看護の内容とその成果について振り返り分析します。 ・ケーススタディへの取り組みに必要な文献の検索、文献カードの作成を行います。研究テーマに関連する文献から、自分の知識を広げてください。 ・研究プロセスの理解を深めるために、オンデマンドの看護学会（又は模擬発表会）の口演を視聴します。 ・対面授業ができない場合や、臨地実習に行かない場合には、学習方法や課題を変更することがあります。それに伴い、成績評価の方法と基準を修正する場合があります。 			
No	学習内容	学習方法	担当教員	担当教員名
1.	1. 研究とは何か 2. 看護研究の必要性 3. 看護実践を向上させる研究	講義	専任講師	
2.	4. 研究過程の概観 5. 事例研究（定義、意義、限界と考慮点、計画と実施） 6. 口頭発表 7. 研究発表参加	講義	専任講師	
3.	8. 研究倫理 9. 看護研究のクリティーク 10. 研究の種類（デザイン）と特徴	講義	専任講師	
4.	11. 事例研究報告書（論文）の書き方 12. 整形外科患者の事例 13. 看護研究テーマの具体例	講義	専任講師	
5.	14. 文献検討の方法 15. 研究テーマの選定（テーマ決定シートの作成）	講義 個人ワーク	専任講師	
6.	16. 文献検索	個人ワーク	専任講師	
7.	17. 文献の抄読 18. 文献カードの作成	個人ワーク	専任講師	
8.	単位修得試験	筆記試験	専任講師	
9.				
10.				
11.				
12.				
13.				
14.				
15.				
16.				